

# 工業高校に高度熟練技能者を派遣

## —JAMのものづくり技能継承の取り組み

学校と労働組合——見結びつかな  
い組み合わせだが、「ものづくり」を軸  
にタッグチームをつくり、日本の熟練  
の技の継承に取り組んでいる。機械金

属産業の中小を多く組織し、「ものづく  
り産業労働組合」を標榜するJAM(眞  
中行雄会長、三八万八〇〇〇人)は、「も  
のづくり」にこだわりが強く、自らが  
事業主体となつて

### 労組自らが後継事業の受け皿に

技能継承のために熟練技能者を活用  
する事業については、一九九八年度か  
ら厚生労働省が「熟練技能人材登録・  
活用事業」指導力の高い熟練技能者を  
「高度熟練技能者」に認定したうえで、  
工業高校や中小企業に派遣し実技指導  
を行う事業」として実施していたが、  
二〇〇九年度に厚生労働省自らの事業仕分  
けで廃止された。それを受けて、同事  
業の設立にもかかわらず労働組合JAM  
は、組織内議員も動かしながら同事  
業の復活を求めて要請活動を展開。二  
〇一一年度より新規に「業界等が取り  
組む熟練技能者を活用した技能継承の  
支援・促進事業」が後継事業として立  
ち上げられた。事業予算規模は、旧事  
業の約三億六〇〇〇万円に対して、約  
五三〇〇万円と七分の一になり、これ  
を事業実施の四組織・団体が分け合っ  
て事業を進める形だ。

### 熟練技能が継承されない 現状に危機感

に参加して受託した。産業別労働組合  
がこの種の事業の実施主体となる初め  
てのケースとなった。労組自らが政策  
を要請し、政策実施の主体となるもの  
で、政権交代で支持政党の民主党が与  
党となり、従来のややもすると言いつ  
放しともいえた姿から転換しつつある  
労組の政策・制度の取り組みを象徴す  
るものといえそうだ。

「ものづくりの職場では、多くの労働  
者が力を合わせ一つにまとまって製品  
が出来上がる。技術部門が優れた設計  
を考えても、製造部門が設計の意図通  
りの信頼性やコストで仕上げなければ、  
付加価値が高く競争力のある製品はで  
きない。その意味で、工業高校への高

高度熟練技能者を  
工業高校などに派  
遣する事業を展開  
している。厚生勞  
働省がものづくり  
立国推進事業の一  
環として行う「業  
界等が取り組む熟  
練技能者を活用し  
た技能継承の支  
援・促進」事業を  
受託して実施する  
もので、労組がこ  
のような事業に事  
業主体として関わ  
るのは極めて珍し  
い。埼玉県さいた  
ま市の私立小松原  
高校での実際の指  
導風景を交えなが  
ら、取り組みにつ  
いて紹介する。

従来、旧事業は中央職業能力開発協  
会が事業を実施していたが、新事業で  
は業界団体などが受け皿となつて事業  
実施を担う形となつており、労働組合  
も自らその役割を担うべきだとの考え  
から、JAMが事業の実施主体として  
受け皿になることを決断、企画コンペ



度熟練技能者の派遣は、技能士をめざす学生たちに、熟練技能者の人柄に触れることも含め、現場から高い評価があり、わが国のものづくりへの大きな力となる。将来のものづくり産業の発展に向けて、しっかりと種を蒔いていくと強調している（ともに、二〇一一年五月三十一日、第一九回中央委員会でのあいさつ）。

### 少なくとも二三年間は事業継続を決意

JAMは、同事業を行う目的として、①機械金属産業における「熟練技能」の継承を行うことにより、日本経済を支える機械金属産業の「ものづくり」の強さを維持・発展させる②熟練技能を有する人材を大切に、国内における活躍の場を提供する——の二つを掲げながら、自ら「産業別労働組合として労働運動の新しい分野に挑戦する」と位置づけ、「(政府からの)予算が付く付かないにかかわらず、少なくとも三年間は事業を継続する決意だ」(菊池正範JAM熟練技能継承推進室事務局長)としている。

事業の運営体制をみると、JAM本部に書記長直轄の「JAM熟練技能継承推進室」を設け、埼玉、岐阜、大阪の三地域にコーディネーターを配置して、工業高校や中小企業の受け入れニーズを把握しながら、適切な熟練技能者を指導者として派遣するとしている。熟練技能者のリクルートについては、旧「熟練技能人材登録・活用事業」で高度熟練技能者に認定され、活動していた人材を中心に協力を仰いでいる。

認定されている六〇〇〇人の高度熟練技能者のうち一割程度がJAMの組合OBで、積極的にJAMの仲間の人材の活用も進めていくとしている。

### 三府県で受験に向けた技能指導を実施

取り組み初年度の二〇一一年度は、埼玉、岐阜、大阪の三府県で工業高校に熟練技能者を指導者として派遣することから事業をスタートさせ、それぞれの工業高校で課外授業として、技能検定受験に向けた技能指導を実施。埼玉県では事業を企業にも広げ、中小企業四社を対象に技能支援を行った。旋盤やフライスなどの高度熟練技能者二人が派遣された工業高校の事業では、二三校で延べ日数三五一日、延べ受講者数にして三六七〇人の技能指導実績

2011年度事業実施実績（工業高校実施分のみ）

地域	事業実施学校	延べ日数	延べ時間数	延べ受講者数
埼玉県	7校	153	556	1317
岐阜県	9校	127	442	1806
大阪府	7校	71	306	547
合計	23校	351日	1314時間	3670人

を上げている。

指導の成果も着実に現れているように、事業を展開した工業高校では、検定試験の受験者数だけでなく合格率もアップしており、一昨年の七五・一%から昨年は八一・三%と、約六ポイント伸びている。すべての学校が「来年も指導派遣して欲しい」としており、生徒の満足度も九割を超えている。

### 検定試験の合格率が100%に 小松原高等学校

今回、取材した小松原高等学校(加藤正芳・校長)は、全校生徒一四五八人のうち約四割の五五六人が工業系学科(機械科、情報技術科、自動車科)で学んでおり、私立の工業系学科としては比較的規模が大きい。ここでは、機械科の七二人から選抜された、旋盤の技能検定三級の資格取得をめざす一人が、課外授業として高度熟練技能者から指導を受けている。ちょうど夏休みに入り、生徒たちは、八月の検定試験に向けて追い込みの実習作業に熱心に取り組んでいた。機械科主任の枚森松一先生によると、現場で熟練を積んできた技能者と教員では、技能を培ってきたバックグラウンドが異なるため、作業に対する考え方ややり方が違うこともあるのだが、「目標である検定試験に合格するためには、生徒たちがその両方を経験することの意味は大きい」と強調する。

確実に指導の成果も上がっている様子で、「従来から、さまざまな資格をとる教育に力を入れてきたが、昨年は機械科の三年生がジュニアマイスターの



加藤校長

### 技能継承が技能者の喜びとやり甲斐に

高度熟練技能者として生徒に旋盤技術を指導する千葉政光さんに、実際の現場で技能を蓄えてきた熟練技能者が教える意味について聞いたところ、「作業工程のみに注力するのではなく、考えながらつくるのが大切だ。旋盤に向かう姿勢やマニュアル的な作業工程などの基本をしっかりと体に覚えこませつつ、常に考えて作業を進めることを心がけるよう指導している」と説明しながら、「生徒もみんな熱心に取り組んでいく。企業のものづくりの現場で培ってきた技能そのものだけでなく、作業に向かう心構えも積極的に吸収してくれていると思う。ときには、請われて企業での職業人生について話したりもしている」と笑顔で話す。四〇年

高度熟練技能者として生徒に旋盤技術を指導する千葉政光さんに、実際の現場で技能を蓄えてきた熟練技能者が教える意味について聞いたところ、「作業工程のみに注力するのではなく、考えながらつくるのが大切だ。旋盤に向かう姿勢やマニュアル的な作業工程などの基本をしっかりと体に覚えこませつつ、常に考えて作業を進めることを心がけるよう指導している」と説明しながら、「生徒もみんな熱心に取り組んでいく。企業のものづくりの現場で培ってきた技能そのものだけでなく、作業に向かう心構えも積極的に吸収してくれていると思う。ときには、請われて企業での職業人生について話したりもしている」と笑顔で話す。四〇年



間にわたりホンダで旋盤一筋に歩いて培った高度な熟練技能が、生徒に受け継がれることで、千葉さん自身にとっても大きな喜びとやり甲斐になっているようだ。

### 教職員に与える影響も評価

やはり、学校教育だけでは得られないプラスαが生徒たちに好影響を与えているようで、「熟練の技能者は独特の雰囲気をもっており、説得力が非常に高い」(秋森先生)と高く評価する。実際に、目標である検定資格を得るための課題では、「ただつくるだけでなく、どんな創り込みができるのかまで考えることが求められる」(菊池正範 JAM 熟練技能継承推進室) そうだ。

普段は学校の教育現場とは縁の薄い労働組合からの働きかけに関する、学校側の受け止めについて、古寺金蔵教頭に聞いたところ、「縮小傾向にある工

業系の高等学校教育に光を当ててくれたのは大変うれしいこと。支援はどんな組織からでもありがたい。特段の違和感はなかった」という。生徒の指導だけでなく、教職員に与える影響についても評価されており、「教員は社会経験がない。教員も、技能ばかりでなく、ものづくりに向かう心構えや人生経験を熟練技能者から学ぶことができる」と指摘している。

### 中小企業ニーズの掘り起しを

二〇一一年度の事業は工業高校中心で、企業での技能指導はなかなかコーディネートが難しく、大村製作所、シバサキ製作所、共和ダイカスト、日本ノズル精機の四社、延べ指導日数一六日間に留まった。しかし、受け入れ企業の評価をみると、「自社単独で行う技能教育の仕組みがなく、JAMからの申し出は大変ありがたい」技能を教えられる者はいても時間が取れない。社外からの刺激という意味でも、今回の熟練技能者継承事業はうってつけだと思ふ「同じ会社の人間だとうして甘えが出る。行政主体の事業とは違って、日程調整の段階から参加でき、費用がかからない点も申し分ない」など、いずれも高評価を得ている。

JAMでは、今年度の事業を進めるに当たり、埼玉、岐阜、大阪の三地域の近隣を含め、全国を視野に入れて、中小企業のニーズの掘り起こしに力を入れる考えで、延べ指導日数一〇〇日、延べ受講者一五〇人を目標として掲げている。

(調査・解析部主任調査員 郡司正人)

# 日本労働研究雑誌

B5判●定価895円(税込)  
年刊購読料10,740円  
(ナサービス)

9 No.626 SEPTEMBER 2012  
特集 雇用ミスマッチ—概念の整理から

#### 【提言】

ミスマッチの背景

大橋 勇雄

#### 【書評】

小杉礼子・原ひろみ編著『非正規雇用のキャリア形成』

五石 敬路

大嶋卓子著『不安家族』

大沢真知子

#### 【論文】

雇用ミスマッチの概念の整理

川田 恵介

#### 【読書ノート】

大瀧雅之著『平成不況の本質』

櫻井宏二郎

職業間ミスマッチの地域間格差に関する分析

佐々木 勝

雇用ミスマッチと法政策

佐藤 仁志

労働市場制度とミスマッチ—雇用調整助成金を例に

濱口桂一郎

企業内の雇用ミスマッチと解雇権濫用法理

神林 龍

雇用の場における若年者と高齢者—競合関係の再検討

島田 陽一

#### 【論文 Today】

「大学学部内での研究者間ピア効果

—ナチスドイツにおける研究者追放を利用した実証分析」

小野塚祐紀

#### 【フィールド・アイ】

グランド・キャニオンへの道

阿部 正浩

#### 【研究ノート (投稿)】

海外派遣からの帰任—組織への再適応とその決定要因

内藤 陽子

お問い合わせ先 独立行政法人 労働政策研究・研修機構 研究調整部成果普及課

Tel : 03-5903-6263 Fax : 03-5903-6115 E-mail book@jil.go.jp